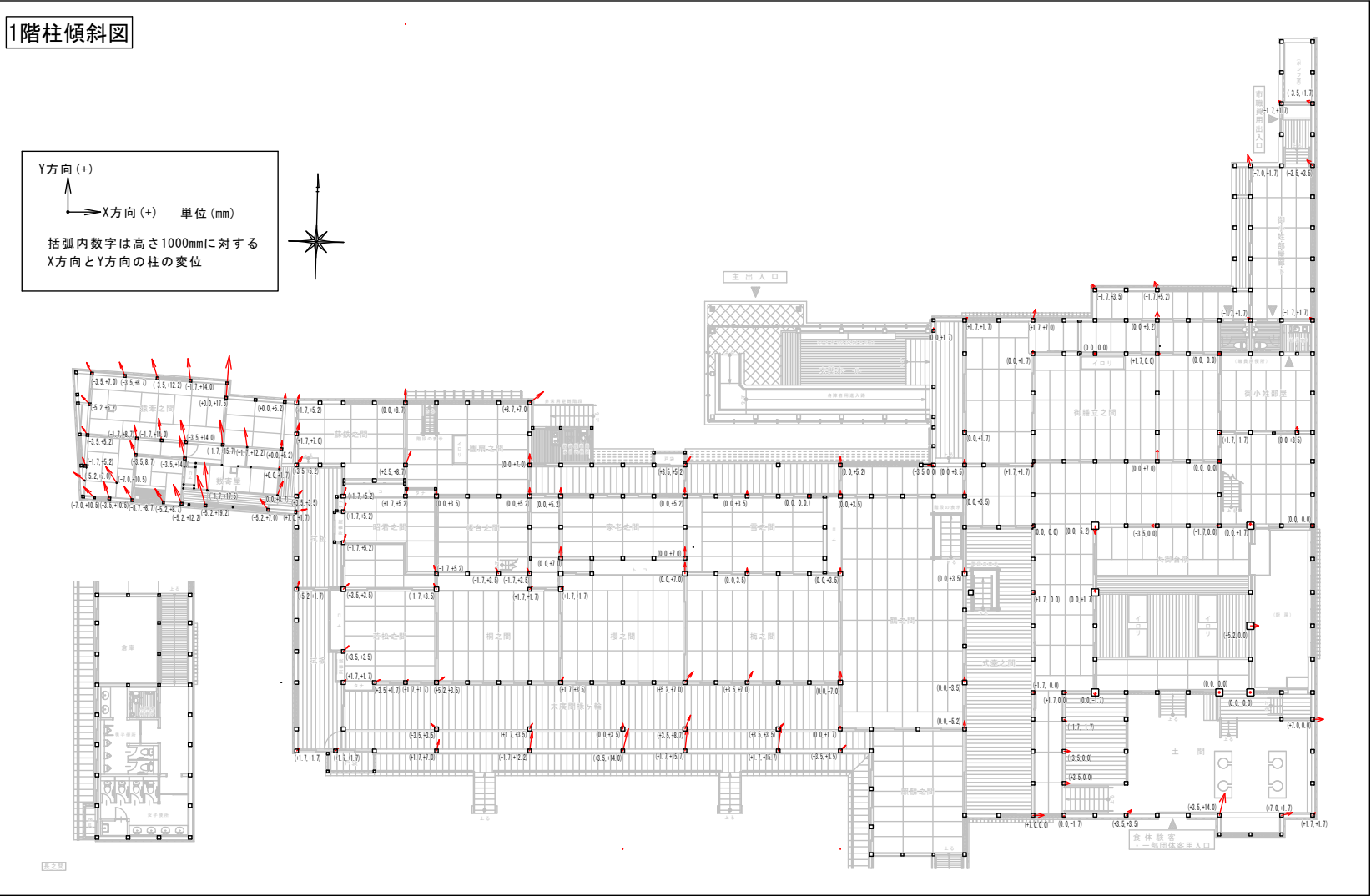
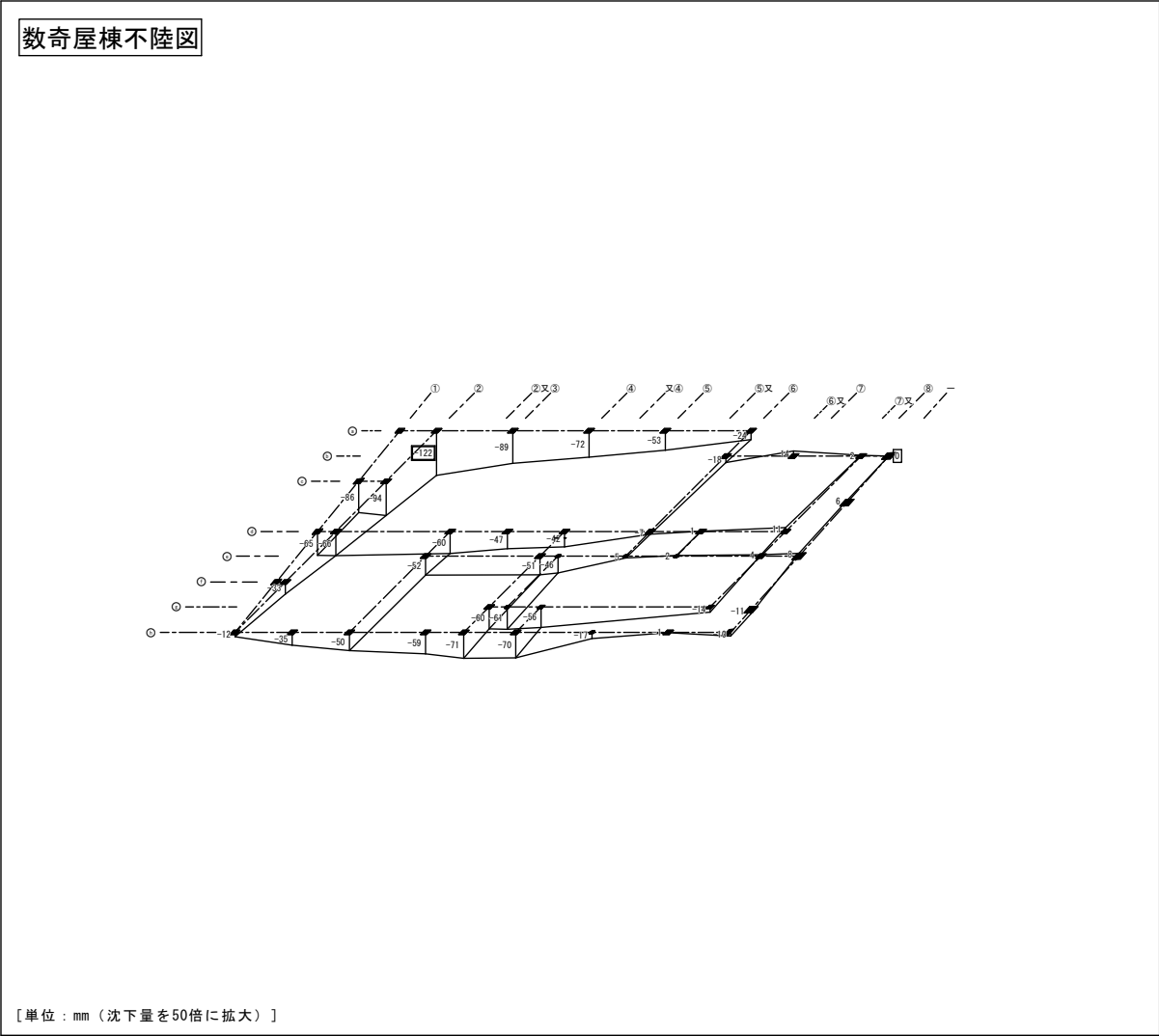
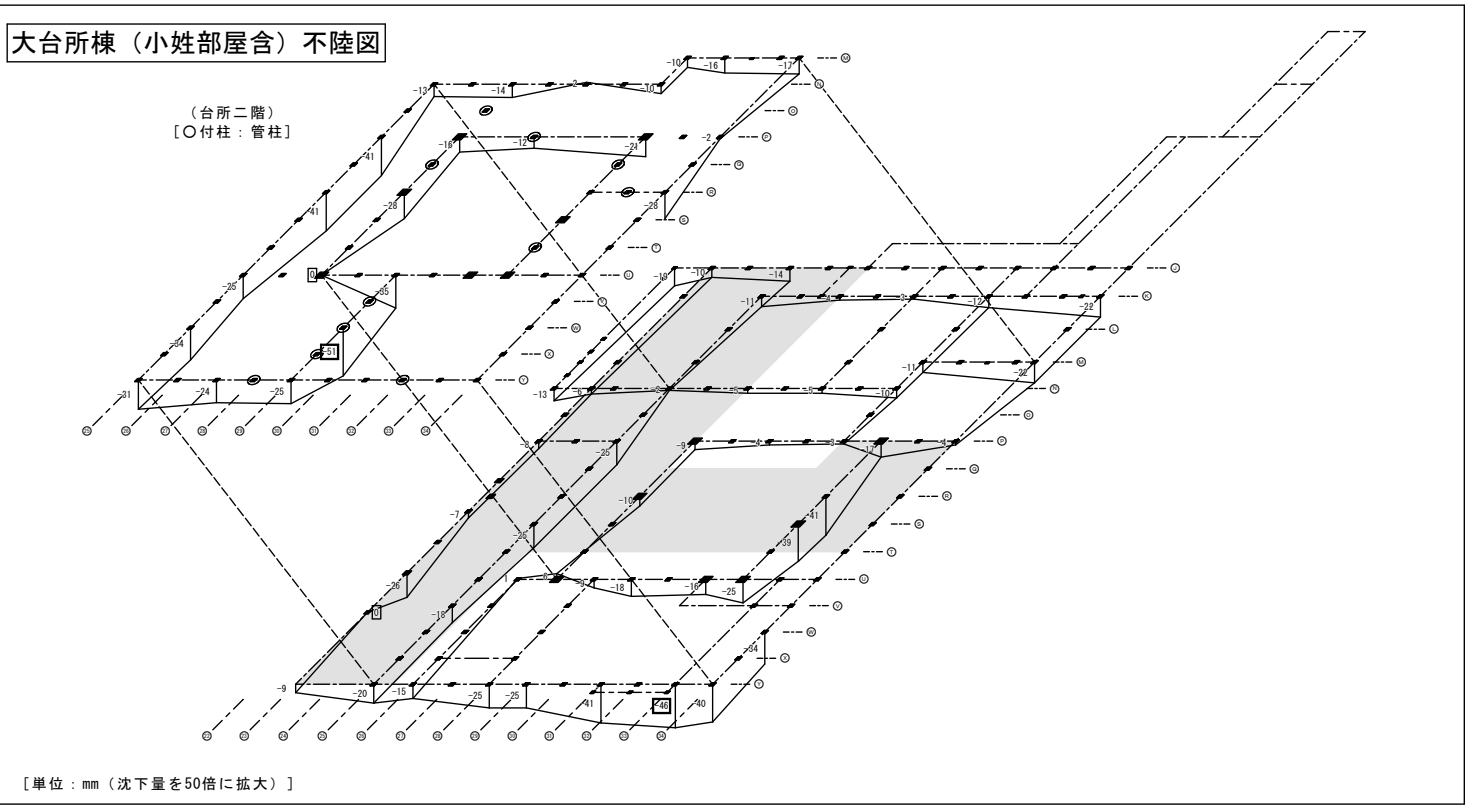
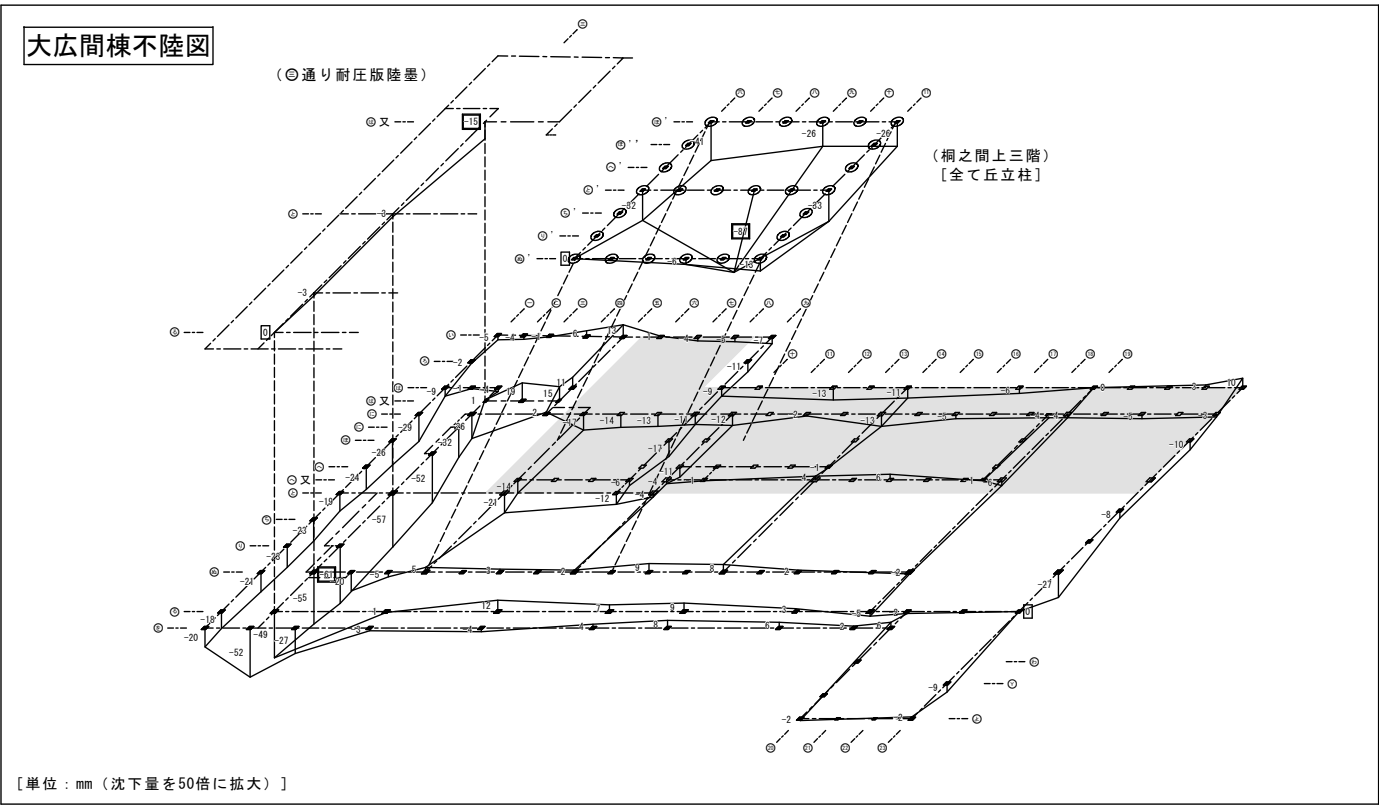






1 大広間棟 外観南面
屋根瓦は、目地漆喰の剥離はみられるものの、大きな損傷は見られない。石垣上は、西妻壁筋の地盤（石垣裏込）が沈下し、柱が下がっている。戸袋の板壁が外れているのも、その沈下の影響である。



2 大広間棟 外観南面
地盤沈下に伴う柱の沈み（左から2本目）



7 昭君之間 北面
北面には床の間と違棚を設け、張り壁とする。左側の柱列が沈下しているため、上段上がり框は左端が沈み右端を跳ね上げている。



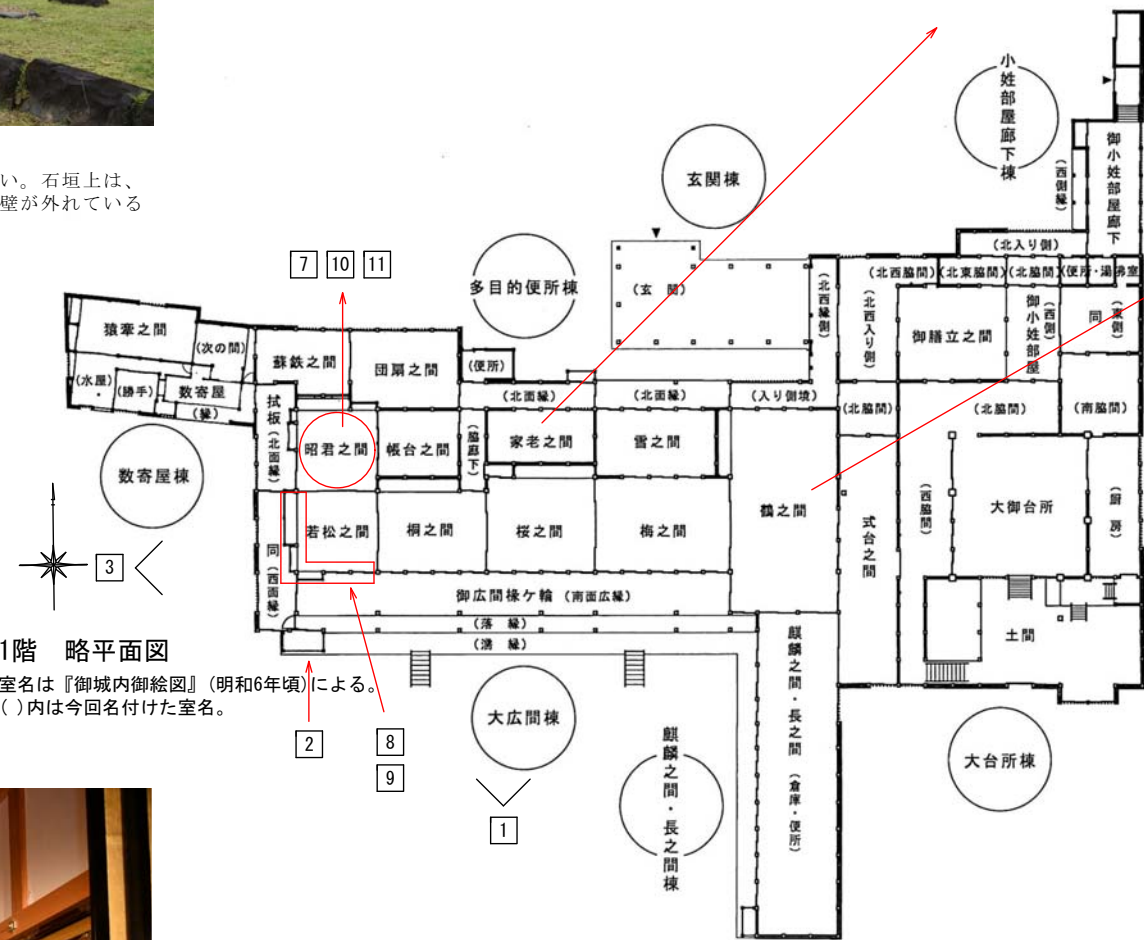
3 大広間棟 外観西面



4 家老之間 南西面
西面の壁は、漆喰が崩落している。



5 梅之間 南面小壁の割れ
東西方向の壁の割れは、梅の間同様にすべて西上から東下に入っている。



1階 略平面図
室名は『御城内御絵図』（明和6年頃）による。
()内は今回名付けた室名。



6 大広間棟 小屋裏 東より見る
小屋組は、筋違に座屈やずれが生じていたが小屋束と小屋貫に顕著な破損はみられない。楔が緩んでいたが、地震が直接の原因かどうかは不明で、地震前から緩んでいた可能性もある。



8 若松之間 南面
南面の小壁は、ほかの大広間の部屋同様に、西上から東下に亀裂が入る。中央間の腰高障子左上と右下に柱との隙間があるが、柱は傾斜がほとんどないので、ここでは敷居の右側が下がり、建具が斜めに入っている状態である。



9 若松之間 違棚詳細
南面西寄りには違棚があるが、障壁画が歪んだり裂けたりしている。



10 昭君之間 床下
西側（画面左）の石垣筋の沈下が顕著で、根太が傾いているのがわかる。



11 同 間通路大引の抜け（浮き）



12 数寄屋棟 外観南面

壁の割れは少なく、屋根も健全であるが、右から2本の桟梁が浮き上がっている。石垣には、孕み出しがみられる。



13 数寄屋棟 南面石垣の孕み

西からみた数寄屋棟の南面石垣。孕み出しの具合がみえる。



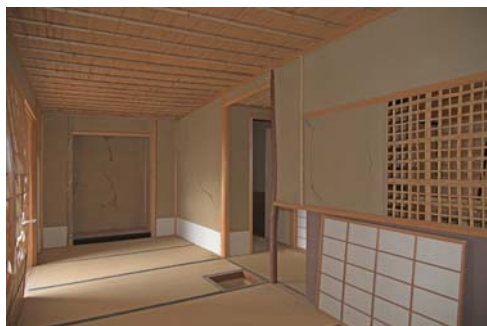
19 大台所棟 外観南面

屋根瓦には、大きな損傷は見られないが、壁には梁尻に亀裂が目立つ。だいたい動いたものとみられる。



15 数寄屋勝手 東面

壁に大きな亀裂が入る。

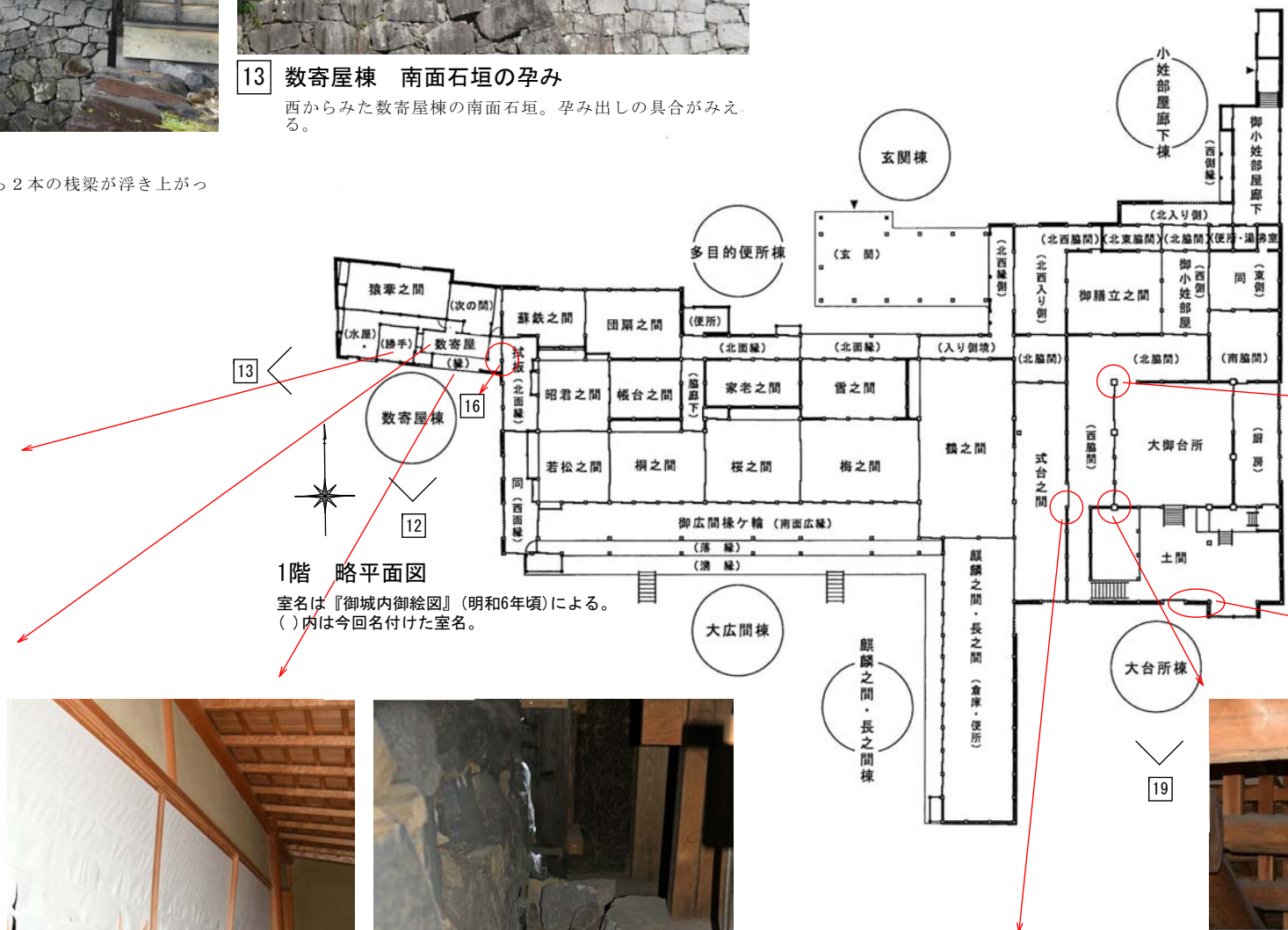


14 数寄屋 北西面

ほとんどの壁が剥落まではいかないが大きく割れた。左側縁境の腰障子は、内法が縮まったため大きく曲がり、障子紙も破れてしまっている。



16 数寄屋縁東端の壁面上方



17 数寄屋・縁境の腰障子

床が突き上げたため建具が突っ張ったが耐えられず大きく曲がり、中央の障子は堅框が折れている。



18 数寄屋棟 腰石垣の状況

間詰めめの石が沢山抜け落ちていた。築石の崩落はない。



23 同 梁継手のずれ

揺れにより台持継にずれが生じたが、現在は元にも戻らず固定された状態にある。



20 大御台所と西脇間境の敷居の外れ



21 土間際の地覆石の乱れ



22 大台所棟 二階の単独柱

この単独柱のみ東側（画面左）に大きく傾斜している。

